# Arsprout Air セットアップ・設置 マニュアル

(Air クラウドゲートウェイ版)



Ver.1.8

# 【改訂履歴】

| バージョン | 改定内容                                     | 改定日       |
|-------|--|-----------|
| 1.0   | 新規作成                                     | 2024/1/10 |
| 1.1   | Air ノードの SW3 の DIP5、DIP6 を中距離モードに設定するよう追 | 2024/1/22 |
|       | 記。日射センサのクラウド連携方法を追記                      |           |
| 1.2   | CO2 の校正方法を追記                             | 2024/3/15 |
| 1.3   | Air クラウドゲートウェイの LED 点灯確認を修正              | 2024/5/31 |
| 1.4   | Air 土壌センサの注意点、取付方法、設定方法、設置方法を追記          | 2025/1/9  |
| 1.5   | Airノードの電池残量警報を電圧判定から、電池残量(%)判定へ変         | 2025/1/20 |
|       | 更  |           |
| 1.6   | Air ノード基板をケースに入れる図を変更                    | 2025/2/14 |
| 1.7   | Air ノード本体画像一部差し換え(配線を通す穴を3つに変更)          | 2025/5/29 |
| 1.8   | ノードの基盤バージョンによってジャンパピンの印字が異なる旨を追          | 2025/9/4  |
|       | 記(Air 日射センサ接続時の箇所)                       |           |

# 目次

| 1. 前 | ī提                              | 4    |
|------|---------------------------------|------|
| 2. A | rsprout Air(Air クラウドゲートウェイ利用)概要 | 4    |
| 3. 部 | 【品一覧                            | 5    |
| 4. A | ir 土壌センサの注意点                    | 7    |
| 5. A | ir クラウドゲートウェイ動作確認               | 8    |
| 6. A | ir ノード動作確認                      | 9    |
| 7. A | ir ノードにセンサ接続                    | . 12 |
| 6.1  | 温湿度センサ、温湿度・CO2 センサ接続            | . 12 |
| 6.2  | 土壌センサ接続                         | . 13 |
| 6.3  | 日射センサ接続                         | . 14 |
| 8. A | rsprout クラウド連携確認                | . 15 |
| 9. 設 | 建置                              | . 20 |
| 8.1  | Air クラウドゲートウェイ設置                | . 21 |
| 8.2  | ソーラパネル設置                        | . 21 |
| 8.3  | バッテリー設置                         | . 21 |
| 8.4  | Air クラウドゲートウェイ、ソーラパネル、バッテリー接続   | . 22 |
| 8.5  | Air ノード設置                       | . 24 |
| 8.6  | 土壌センサの設置                        | . 25 |
| 10.  | 設置後の確認                          | . 26 |
| 11.  | チューニング                          | . 27 |
| 10.1 | 長距離モードにする場合                     | . 28 |
| 10.2 | 2 中距離モードにする場合                   | . 29 |
| 12.  | 補足                              | . 30 |
| 11.1 | バッテリーの LED ランプ                  | . 30 |
| 11.2 | 2 Air ノード推奨電池                   | . 30 |
| 11.3 | 3 Air ノード電池交換目安                 | . 30 |
| 11.4 | 4 Air ノードの電池持ち                  | . 30 |
| 11.5 | 5 Air ノードの電池の残量が少なくなった場合通知する    | . 31 |
| 11.6 | 5 CO2 センサの校正                    | . 32 |
| 13.  | お問合せ                            | . 32 |
|      |                                 |      |

#### 1. 前提

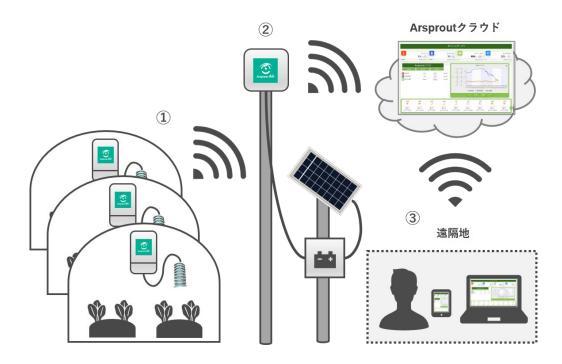
Arsprout Air の利用には Arsprout クラウド加入が必須です。運用開始前に必ずお申込みください。

Arsprout クラウド新規利用申し込みフォーム

https://www.arsprout.co.jp/products/arsprout-cloud/arsprout-cloud-form/

※特記事項欄に「Arsprout Air 利用」とご記入ください。

#### 2. Arsprout Air (Air クラウドゲートウェイ利用) 概要



- ① 各ハウスに設置している Air ノードから、計測データを Air クラウドゲートウェイへ送信します。
- ② 屋外の Air クラウドゲートウェイは Air ノードからの計測データを受信し、Arsprout クラウドへ送信します。
- ③ ユーザは Arsprout クラウドヘアクセスし、計測データを確認します。

※Air ノードにセンサを接続します。

※Airノードは乾電池(アルカリ単三電池4つ)で稼働します。

※Air クラウドゲートウェイは AC アダプタまたは、ソーラパネルとバッテリーで稼働します。

※Air クラウドゲートウェイと Air ノードの間に障害物(家や木等)がなく見通しが良い状態であれば 長距離のデータ送信が可能です。

# 3. 部品一覧

| 製品名   | 写真   | 補足   |
|---|--|--|
| Air クラウドゲートウェイ                                  | Augment Air  | Air クラウドゲートウェイ本体 1 台<br>設置用結束バンド付属                             |
|   |  | 電源ケーブル 1本  |
|   |  | AC アダプタ 1 個<br>DC ジャック 1 本                                     |
| Air ソーラーセット<br>※Air クラウドゲートウェ<br>イを AC アダプタで稼働さ | CONS   | バッテリー 1台   |
| せる場合は不要   |  | ソーラパネル 1台  |
|   |  | ソーラパネル付属品(単管パイプ取付部品)<br>架台 1個<br>タッピングネジ 4点<br>タッピングネジ用穴あけ釘 1点 |
|   | Print Control of Contr | 単管パイプ固定用ネジ 3点<br>アルコールクリーナー 1点<br>ソーラパネル用架台折津家手順書 1点           |
| Air ノード   | Augenos Ale  | Air ノード本体<br>設置用結束バンド付属  |

|                                  | アルカリ単三電池(4本)    |
|----------------------------------|-----------------|
| 各種センサ<br>※すべてが含まれるわけで<br>はありません。 | Air 温湿度センサ      |
|                                  | Air 温湿度・CO2 センサ |
|                                  | Air 日射センサ       |
|                                  | Air 土壌センサ       |

# 4. Air 土壌センサの注意点

土壌センサを Air ノードへ接続する場合は、Air ノード基板が V1.3 以上である必要があります。 土壌センサを追加する場合は、基板のバージョンをご確認ください。



Air ノードを土壌センサに接続する場合、他センサは接続しないことを推奨します。 土壌センサは消費電力が大きい為、電池切れが早まる可能性があります。日射センサは比較的、消費電力が小さいので、同じ Air ノードに接続しても問題ありません。

土壌センサを、一般土壌以外(ロックウール・ココピート等)で使用される場合は、設置に関してセンサ製造メーカー(村田製作所)の直接サポートが必要になりますので、その際は当社にご連絡ください。

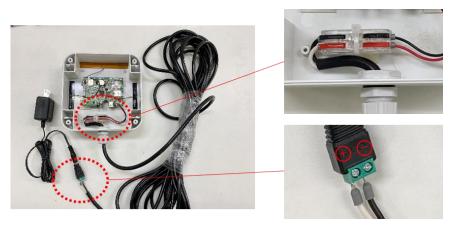
# 5. <u>Air クラウドゲートウェイ動作確認</u>

Air クラウドゲートウェイの背面のネジを 4 個所外し、蓋を外します。 ※ネジ穴がつぶれやすいので注意してください。

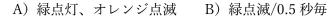




AC アダプタに DC ジャックを取り付け、電源ケーブルで Air クラウドゲートウェイと接続します。



AC アダプタをコンセントに挿し、LED 点灯を確認します。コンセントに挿してから LED 点灯まで 30 秒程度かかります。



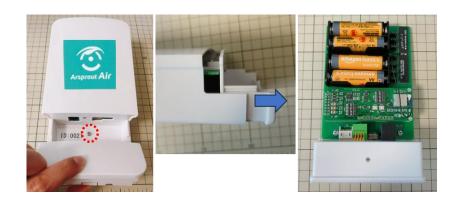


以上で Air クラウドゲートウェイ動作確認は完了です。

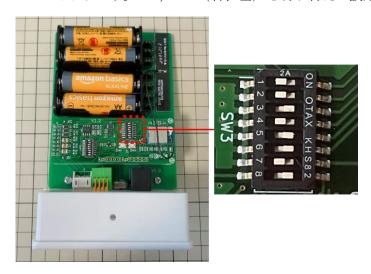
※クラウド連携確認後に、Air クラウドゲートウェイの蓋を閉じてください。

#### 6. Air ノード動作確認

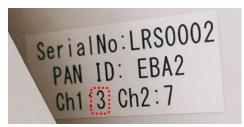
この作業はAir クラウドゲートウェイの電源を入れた状態で作業してください。 Air ノードの蓋を外し、ネジを外します。基板を取り出し、電池を4本入れます。



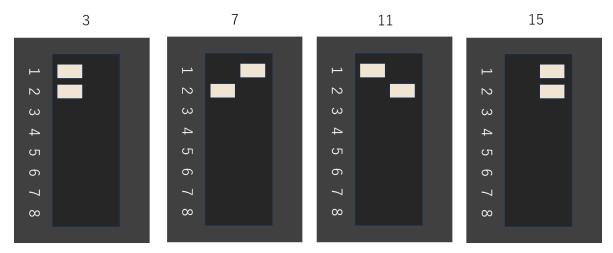
Air クラウドゲートウェイと通信できるように SW3 (DIP スイッチ)を設定します。 SW3 は 1 から 8 までの DIP スイッチです。ON, OFF(右、左)を切り替えて設定を行います。



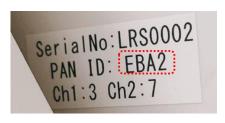
Air クラウドゲートウェイの Ch1 の番号を確認します。(Air クラウドゲートウェイの蓋裏のシールを確認してください。)



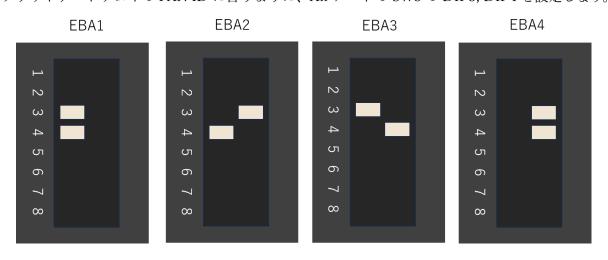
Air クラウドゲートウェイの Ch1 の番号に合うように、Air ノードの SW3 の DIP1, DIP2 を以下の通り 設定します。



Air クラウドゲートウェイの PAN ID の値を確認します。



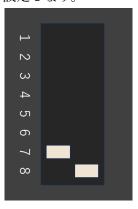
Air クラウドゲートウェイの PAN ID に合うように、Air ノードの SW3 の DIP3, DIP4 を設定します。



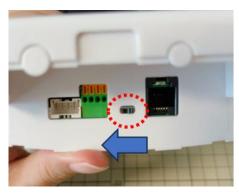
Air ノードの SW3 の DIP5、DIP6 を以下の通りに設定します。(中距離モード)

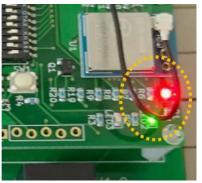


Air クラウドゲートウェイを使用する為、SW3 の DIP7 を以下の通り設定します。また、Air ノードが LED 点灯するように DIP 8 を以下の通り設定します。



Air ノードのスイッチを入れて電源を入れます。LED の点灯を確認します。(赤点灯。緑点灯後、消灯)





以上で Air ノード動作確認は完了です。

※クラウド連携確認後に、Airノードの蓋を閉じてください。

# 7. Air ノードにセンサ接続

# 6.1 <u>温湿度センサ、温湿度・CO2 センサ接続</u>

温湿度センサ、温湿度・CO2 センサは以下の通り接続します。接続後、軽くひっぱっても抜けないことを確認してください。





# 6.2 土壌センサ接続

土壌センサを接続する場合は、基板が V1.3 以上である必要があります。基板のバージョンをご確認ください。

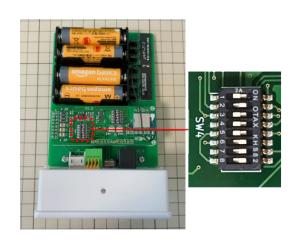


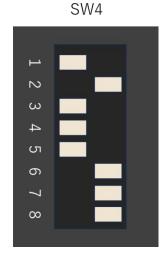
土壌センサは以下の通り接続します。接続後、軽くひっぱっても抜けないことを確認してください。





土壌センサを接続する場合は、Air ノードの SW4 の DIP スイッチが以下の通りに設定されていることを確認してください。





# 6.3 日射センサ接続

日射センサは、以下の通りに接続します。

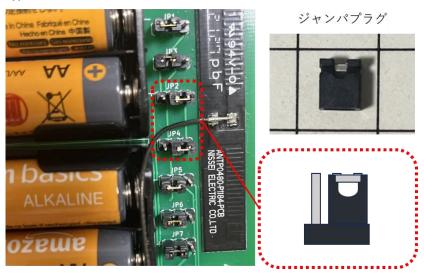




オレンジの爪をドライバ等で押しながら、端子を接続します。接続後、軽くひっぱっても抜けないこと を確認してください。



日射センサを接続する場合は、電池右横にあるジャンパプラグを 2 か所差しなおします。 ジャンパプラグは真上に引くと外れます。上から 3 番目と 4 番目の 2 か所のジャンパピンの真ん中と右 をジャンパするようにジャンパプラグを差します。(基板のバージョンによってジャンパピンの印字が異なる場合があります。)



#### 8. Arsprout クラウド連携確認

#### この作業は Air クラウドゲートウェイ、Air ノードを起動して行ってください。

Arsprout クラウドにログインし、Air ノード画面を開きます。

ブラウザを開き「<a href="https://cloud.arsprout.net/">https://cloud.arsprout.net/</a>」 ヘアクセスし、Arsprout クラウドにログインします。メニューの「Air ノード」の下の GW-XXXX(X は数字)をクリックすると、Air ノード ID のデバイスが表示されます。(Air ノード ID は基板裏のシールを確認してください。)

Air ノード ID のデバイスが表示されていない場合は、Air ノードの SW3 の DIP1~DIP4 の設定にミスがある可能性があります。再度確認してください。



Air ノード画面の右下の編集アイコン[11]をクリックし、Air ノード ID のデバイスに表示された編集アイコン[11]をクリックすると設定ダイアログが表示されます。

デバイスタブでは、Air ノードの名称等を設定します。

送信時間は5分(300秒)以上を推奨します。送信時間は、Air ノードが Air クラウドゲートウェイにデータを送信する間隔であり、Air クラウドゲートウェイがクラウドへデータを送信する間隔です。

※送信間隔を短くすると、Airノードの電池切れが早まります。ご注意ください。



15 / 32

データタブでは、Air ノードの各計測項目を設定します。

クラウド連携する計測項目を選択し、有効にチェックを付けてください。Air ノードの「電池電圧」「電 波強度」もクラウド連携することができます。





日射センサを接続している場合、「電圧-1」が日射の表示となります。

「電圧-1」を選択し、有効にチェックを付け、名称、単位、精度を設定し保存ボタンをクリックします。





土壌センサを取り付けている場合、「土壌温度、土壌水分率、ロックウール水分率、ココピート水分率、バルク EC、間隙 EC」から必要なものを選択してください。選択後、有効にチェックを付け、名称、単位、精度を設定し保存ボタンをクリックします。



設定完了後、保存ボタンをクリックします。

ハウス管理から計測値の設定を行います。

ハウス管理画面の右下の編集アイコン[11]をクリックし、各計測項目の編集アイコン[11]をクリックします。アイコン、低レベル値、高レベル値、最低値、最高値を設定し保存ボタンをクリックします。



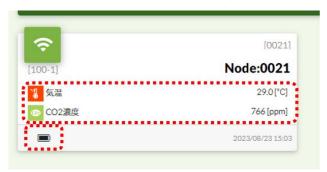
ハウス管理画面の右下の編集終了アイコン[○]をクリックします。

クラウド連携した項目は、Air ノード画面と、ハウス管理画面に表示されます。

また、Air ノード画面では、Air ノードの電池残量が電池マークでおおよそ把握できます。電池残量には 気をつけてください。

※電池マークは「電池電圧」をクラウド連携しなくても表示されます。

※Air ノードの電池残量を監視する警報を通知すると便利です。(31ページ)





CO2 センサの値がずれている場合は、CO2 センサの校正(32 ページ参照)を行ってください。 以上で Arsprout クラウド連携確認は完了です。

クラウド連携を確認後、Air クラウドゲートウェイ、Air ノードの蓋を閉じます。

Air クラウドゲートウェイの蓋裏のシールを写真に撮って保管しておいてください。(設置後にチューニングが必要な場合は、この情報を参照してください。)

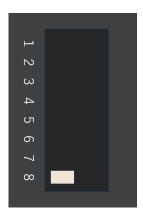


Air クラウドゲートウェイは、蓋をして背面のネジを 4 か所留めます。 ※ネジ穴がつぶれやすいので注意してください。



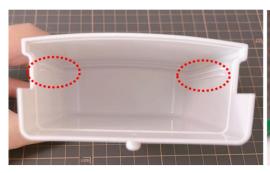


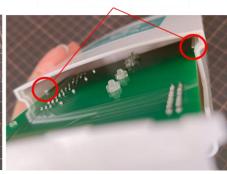
Air ノードはクラウド連携後、LED を消灯するように SW3 の DIP 8 を以下の通り設定します。(電池消費を低減するため LED 点灯を OFF にします。)



Air ノードの基板をケースに戻します。基板をケースに戻す際、ケース内側面の溝に基板を合わせるように入れてください。









基盤をネジで留め、蓋を取り付けます。 ※センサ線は蓋の穴から外に出します。

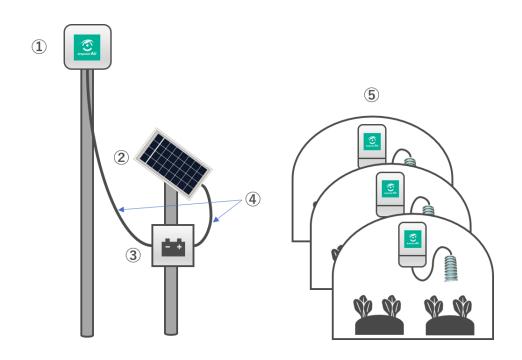




# 9. 設置

Arsprout Air は以下のように設置します。

※Air クラウドゲートウェイを AC アダプタで動作させる場合は、②~④は不要 ※番号は推奨する作業順です。



Air クラウドゲートウェイを屋外の単管パイプに結束バンド等で固定し、ソーラパネルを設置し、バッテリーを設置します。その後、Air クラウドゲートウェイ、ソーラパネル、バッテリーを接続します。最後に Air ノードをハウス内に設置します。

※各作業の詳細は以降に説明

#### 8.1 Air クラウドゲートウェイ設置

- ▶ Air クラウドゲートウェイはできるだけ高い位置 (3m 以上推奨) の屋外に設置します。
- ➤ Air クラウドゲートウェイ背面に結束バンド等を通し、単管パイプにしっかりと固定してください。
- ▶ 離れた Air ノードからデータを受信出来るよう見晴らしの良い高い位置に設置してください。
- ▶ Air クラウドゲートウェイと Air ノードの間は障害物(家屋や森林)がない状態が好ましいです。
- ▶ ソーラパネル、バッテリーを使用しない場合は、ACアダプタをコンセントに接続してください。

### 8.2 ソーラパネル設置

- ▶ ソーラパネルは日中日陰にならない場所に南向きで設置します。
- ▶ メンテナンス (汚れていれば表面を拭く等) 可能な場所に設置することを推奨します。
- ▶ ソーラパネルには、単管パイプ取り付け用部品が付属しています。付属の説明書(ソーラパネル用架台取り付け手順)を参考にしてください。





# 8.3 バッテリー設置

- ▶ バッテリーは屋外、または室内に設置します。
- ▶ LED ランプが目視可能な場所に設置することを推奨します。

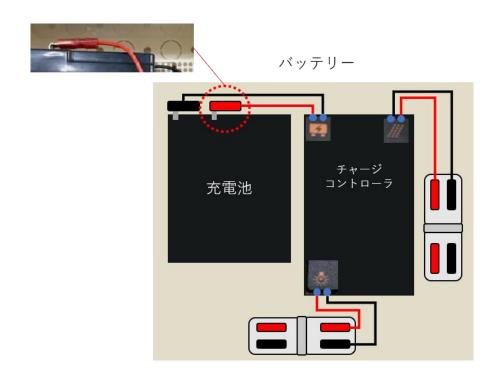
# 8.4 Air クラウドゲートウェイ、ソーラパネル、バッテリー接続

Air クラウドゲートウェイをソーラパネルとバッテリーで稼働させる場合、この作業を行ってください。

バッテリーは充電池とチャージコントローラが内蔵されています。

最初に、充電池とチャージコントローラを赤線で接続します。接続後、チャージコントローラの LED は、赤と緑同時に 2 回点滅し、その後赤だけが点灯します。

この結線は、必ず Air クラウドゲートウェイ、ソーラパネルを接続する前に行ってください。



#### 【注意】

ソーラパネルに接続しない状態でバッテリーを保管する、あるいはバッテリーを輸送する場合は、充電池とチャージコントローラを接続する赤線を外してください。チャージコントローラが微量の電力を消費するため、そのまま放置すると過放電となり、バッテリーが使用不能となります。ご注意ください。

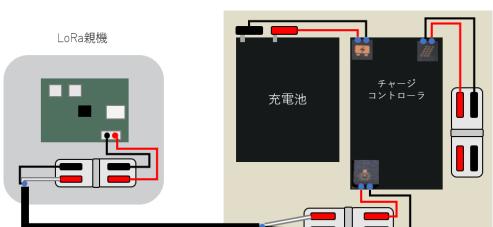


Air クラウドゲートウェイの動作検証で使用した、AC アダプタ・DC ジャックを電源ケーブルから取り外します。

※AC アダプタ、DC ジャックは保管しておいてください。

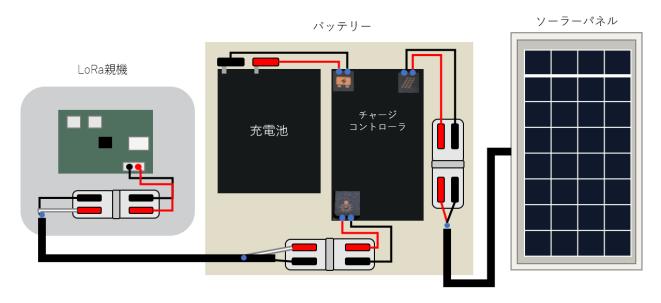


Air クラウドゲートウェイとバッテリーを電源ケーブルで以下の通り接続します。



バッテリー

バッテリーとソーラパネルを以下の通り接続します。



以上で、Air クラウドゲートウェイ、ソーラパネル、バッテリーの接続は完了です。

#### 8.5 Air ノード設置

Air ノードの設置例です。



#### Air ノード本体

- ➤ Air ノードは、背面に結束バンド・紐等を通しハウス上部(電池交換ができる程度の高さ)に設置してください。
- ▶ 作物の葉で Air ノード本体部分が覆われると、データ送信ができなくなります。Air ノード本体 は群落の外に出るように設置してください。大きく成長する作物は、あらかじめ群落に埋もれな い高さに設置するか、成長に合わせて設置位置を調整してください。
- ▶ ハウスの太陽熱消毒を行う場合は、Air ノードをハウスの外へ出してください。

#### センサ各種

- ➤ 温湿度センサ、温湿度・CO2 センサの先端を計測したい位置に来るように、ケーブルの長さを 調節してください。
- ▶ 日射センサは日中日陰にならない位置(ハウス上部)に水平(太陽パネルが上)に固定してください。
- ► 日射センサは、温度が上がりすぎるとドリフトする可能性があります。センサと設置場所の間 に断熱素材(木材など)を挟んで対策をしてください。
- ▶ 日射センサはメンテナンス (汚れていれば表面を拭く等) 可能な場所に設置することを推奨します。

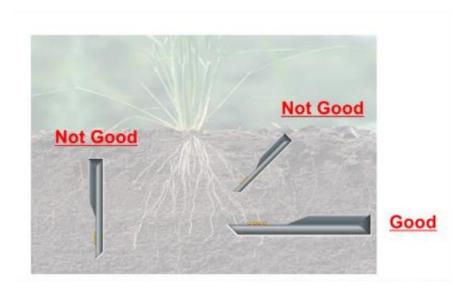
# 8.6 土壌センサの設置

Air 土壌センサを一般土壌に埋める場合は、以下の図をご参照ください。

なお、一般土壌以外 (ロックウール・ココピート等) で使用される場合は、設置に関してセンサ製造メーカー (村田製作所) の直接サポートが必要になりますので、その際は当社にご連絡ください。

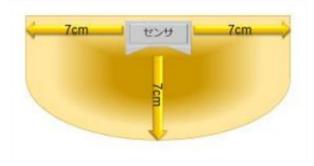
#### 【推奨設置方法】

・計測電極が地表に向くように水平に埋め込んでください。地表に垂直、または斜めには埋めないでください。



#### 【計測影響範囲】

・土壌中において、センサの左右 7cm、下方向 7cm の領域が水分率(VWC)と間隙水 EC(Pore\_EC)の計測値に影響を与える範囲となります。

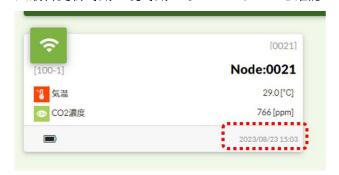


#### 10. 設置後の確認

設置後、再度 Arsprout クラウドにログインし、Air ノードから最新のデータが UP されていることを確認します。

ブラウザを開き「<a href="https://cloud.arsprout.net/">https://cloud.arsprout.net/</a>」 ヘアクセスし、Arsprout クラウドにログインします。 Air ノード画面と、ハウス管理画面に最新のデータが UP されていることを確認してください。 ※クラウド連携間隔(分) 待つ必要があります。

※最終更新時刻が現時刻になっていることを確認してください。





クラウド連携間隔(分)待っても、最新のデータが UP されない場合は、チューニング (27 ページ参照)が必要となります。

チューニング後も最新のデータが UP されない場合は、設置環境を再度見直してください。

# 11. チューニング

Air クラウドゲートウェイ、Air ノード間の通信は、「中距離モード」、「長距離モード」の2種類があります。

| 中距離モード | ➤ Airノードの電池持ちが良い代わりに、電波は中距離にしか飛ばない。 |  |
|--------|-------------------------------------|--|
|        | Air ノードを多く使用する場合に選択するモード。           |  |
|        | ▶ 出荷時は中距離モードが設定されている(デフォルト)         |  |
| 長距離モード | ➤ Airノードの電池持ちが悪い代わりに、電波が長距離飛ぶ。      |  |
|        | 中距離モードでは電波が届かない場合に選択するモード。          |  |

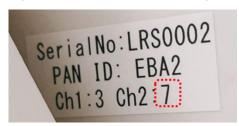
※両モードとも Air クラウドゲートウェイと Air ノードの間は、見通しが良い状態にしてください。

Air クラウドゲートウェイの Ch1 が中距離モード受付チャンネル、Ch2 は長距離モード受付チャンネルです。Air ノードの DIP1、DIP2 でチャンネルを切り替えて、Air ノードの DIP5、DIP6 でモードを切り替えます。

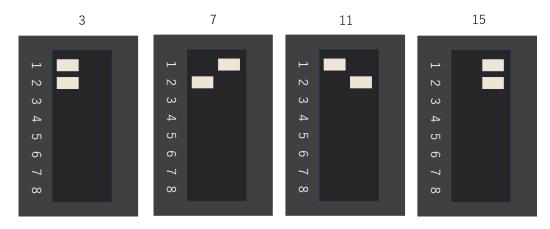
設置後、中距離モードでは通信できない場合は、長距離モードへ変更してください。(28ページ参照)

# 10.1 長距離モードにする場合

Air クラウドゲートウェイの Ch 2 (長距離モード受付チャンネル)を確認します。



Air クラウドゲートウェイの  $Ch\ 2$  の番号に合うように、 $Air\ /$ ードの SW3 の DIP1, DIP2 を以下の通り 設定します。



Air ノードの SW3 の DIP5、DIP6 を長距離モードに設定します。

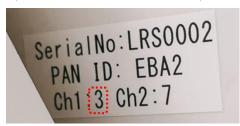
長距離モード



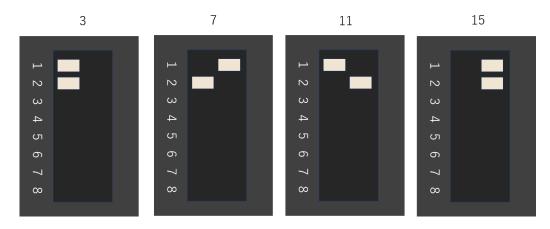
以上で、長距離モードの設定は完了です。

# 10.2 中距離モードにする場合

Air クラウドゲートウェイの Ch1 (中距離モード受付チャンネル)を確認します。



Air クラウドゲートウェイの Ch1 の番号に合うように、Air ノードの SW3 の DIP1, DIP2 を以下の通り 設定します。



Air ノードの SW3 の DIP5、DIP6 を中距離モードに設定します。

1 2 3 4 5 6 7 8

中距離モード

以上で中距離モードの設定は完了です。

#### 12. 補足

# 11.1 バッテリーの LED ランプ

バッテリー (チャージコントローラ) の LED ランプステータスを以下表にまとめます。

|        | 緑 (充電)            | 赤 (放電)       |
|--------|-------------------|--------------|
| 消灯     | ソーラパネルが未接続、または    | バッテリー未接続、または |
|        | 未充電状態(日光が届かない、夜等) | バッテリー出力 OFF  |
| 点灯     | PWM 充電中 ※1        | バッテリー出力 ON   |
| ゆっくり点滅 | フロート充電中 ※2        | 出力電力超過       |
| はやく点滅  | 逆電圧充電 ※3          |              |

※1:バッテリーが満充電でなく、ソーラパネルが動作する状態

※2:バッテリーが満充電状態を維持している状態

※3:ソーラパネルの+-接続が逆

#### 11.2 Air ノード推奨電池

Air ノードの電池はアルカリ乾電池(パナソニック EVOLTA)を推奨します。ニッケル水素充電池も使用可能ですが、アルカリ電池よりも動作時間は短くなります。氷点下の環境では、アルカリ電池の性能が低下するため、通常より動作時間が短い、あるいは動作しない可能性もあります。その場合は、- $40^{\circ}$ C $\sim$ 60 $^{\circ}$ Cまで使用可能なリチウム乾電池(パナソニック FR6HI)もご利用可能です。

また、Arsprout クラウドの電池残量表示(電池マーク)はアルカリ乾電池を基準にしています。アルカリ乾電池以外を使用した場合は、電池残量が一定に減少せず、一定期間後に急激に残量が減る様な表示になりますので、交換時期はご注意ください。

#### 11.3 Air ノード電池交換目安

電池残量 15%程度を目途に電池を交換してください。Arsprout クラウドで、計測値が UP されない (Air ノードの電源を入れなおしても計測値が UP されない)、かつ電池残量、電池強度のみ UP される 場合は電池残量が少ないことが原因の可能性があります。

#### 11.4 Air ノードの電池持ち

Air ノードの電池持ちは、クラウド連携間隔、接続しているセンサの種類、センサの数、通信モード (27ページ参照)に依存します。Air ノードの電池の減りが早い場合は、クラウド連携間隔を長くする 等の対策を行ってください。電池消費は、CO2 センサ>温湿度センサ>日射センサの順で、電池消費が大きくなります。

#### 11.5 Air ノードの電池の残量が少なくなった場合通知する

Air ノードの電池残量が少なくなると、センサ値が計測できなくなる可能性があります。電池マークの確認だけではなく電池残量が 15%を下回った場合に通知する警報を設定すると便利です。通知先は、メールアドレス、LINE 等が選択できます。警報設定に関しては以下 WEB マニュアルを参照してください。

- ➤ Arsprout クラウド WEB マニュアル (警報) https://guide.arsprout.net/alarm/
- 例) 電池残量が 15%を下回った場合、12 時間 (720分) に 1 回通知する



# 11.6 CO2 センサの校正

Air ノード画面の右下の編集アイコン[11]をクリックし、Air ノードに表示された編集アイコン[11]をクリックすると設定ダイアログが表示されます。

データタブで、CO2 濃度を選択し、CO2 校正(ppm)に校正値を入力して保存ボタンをクリックします。 次回クラウド連携時に校正が開始されます。校正には約3分程度かかります。



# 13. お問合せ

本製品についてお気づきの点、ご質問やご要望がございましたら、下記よりお問い合わせください。

サポートメールアドレス: support@arsprout.co.jp 問い合わせ窓口:https://www.arsprout.co.jp/inquiry/